

# 『夢を応援するプロジェクト』 記念フォーラムに参加して

広島国際大学医療経営学科  
教授 原田 俊英

『夢を応援するプロジェクト』は、常翔学園創立90周年記念事業の一環として立ち上げられました。その目的は、常翔学園の3つの大学が協力し合って、未来を担う子供たちの夢を育むことです。全国の小中高校生を対象に『私の夢は〇〇をつくりたい』という夢の作文を募集し、約6,000作品が集まりました。厳正な審査のうえ、このうち小・中・高校生の部門で各7作品ずつ、計21作品が選出され、また、学校特別賞、学校賞、審査委員長賞も選ばれました。その表彰式と記念フォーラムが2008年10月26日、常翔学園OITホールで開催されました（詳細は、読売新聞2008年12月19日朝刊、学園ニュースレターFlow No.34（2009年1月）に掲載）。

表彰式では、各受賞者、受賞校が坂口理事長から表彰状を受け取りました。広島国際大学に所属する者としては、学校特別賞に、地元の東広島市立中黒瀬小学校（同校5年浜中さんの『さんぞキャンディー』も入賞）が選出されたことをうれしく思いました。

記念フォーラムの第一部では、世界的指揮者の西本智実氏による基調講演があり、第二部にて、入賞者による作品紹介とパネルディスカッションが行われました。このパネルディスカッションに、私もパネリストとして参加しました。コーディネーターの常翔学園高等学校 根来教諭の名司会のもと、西本氏、読売新聞大阪本社編集委員 宇川聡氏、大阪工業大学知的財産学部 林教授、摂南大学外国語学部 太田教授と私がパネリストとして、入賞者一人ひとりに話を聞きつつ、コメントをさせていただきました。

このフォーラムで子供たちの話をお聞きして感じたことは、審査の段階からですが、多くの作品が、周囲の人々、世界の人々や動植物、地球環境に至るまで、これらに対する思いやり、いたわり、優しい気持ちや世の中を良くしようという気持ちなど愛情に満ちあふれたものばかりであったということです。

このような夢を持ち続け、努力してゆけば、将来、形は変わろうとも、必ず夢の実現につながるものと思いました。大学で教鞭をとる者として大学生諸君には、分野は各々異なるとしても、このような夢を強く持ち続け、努力して夢を勝ち取ってほしいと改めて思いました。そして、私どもは、その過程において、道標を示したり、助言したり、指導したりしてゆかねばならないとつくづく感じた次第です。

このプロジェクトは、企画の段階から、作品審査、フォーラム開催、夢実現プロジェクトまで、常翔学園の3つの大学と高等学校の教職員が、実行委員長の里村教授（大阪工業大学工学部）のもと一致団結し協力し合って進めてきました。このことも、私は大変意義深いものだと思います。実際、私も学園本部や大阪工業大学、摂南大学、常翔学園高等学校の教職員の皆様と共同作業をしていく上で、大変得ることが多く、良い経験をさせてもらいました。今後も学園内のさまざまな方々と交流してゆければと思っています。

引き続き、現在「夢実現プロジェクト」が各大学で進められています。広島国際大学では、『弾性着衣を楽に身に着けられる道具』という県立今治西高等学校の門田さんの夢を実現すべく、開発が進められています。このプロジェクトは、理学療法学科の蒲田准教授をリーダーとして、私や大阪工業大学モラボの先生方等とチームを組んで進めているところです。摂南大学を中心に進められている「夢実現プロジェクト」の1つ『ボランティアポスト』も非常に有意義なプロジェクトです。これも、3つの大学に協力要請され、文具類など数えきれないほどの寄付が寄せられました。これらは、これから発展途上国の子供達に届けられる予定です。

皆様におかれましては、今後とも「夢実現プロジェクト」へのご理解とご協力、ご指導を賜りたく存じております。何卒よろしくお願致します。



記念フォーラム・パネルディスカッションの一場面